



茨 歯 会 報

No.585

茨城県歯科医師会
Ibaraki Dental Association

March
2018
平成30年

3



Contents

デンタルアイ	1
大字 崇弘	
会務	4
理事会報告	6
会務日誌	7
医療管理委員会だより	11
学校歯科委員会だより	13
新年会だより	19
地区歯科医師会だより	29
須田 聡	
本間 一哉	
リレー通信	34
吾妻 周一	
レディースコーナー	37
仙波 満江	
会員の異動	39
国保組合 NEWS	42
事務連絡	43
赤えんぴつ	44

表紙写真について

日本夜景遺産「関東三大イルミネーション」に認定されている、あしかがフラワーパークのイルミネーションです。例年10月下旬から2月上旬まで開催されています。この時期は様々なメディアで紹介されるため、ご存じの先生も多いかと思えます。

(社)茨城県南歯科医師会 富田 浩之

非常勤歯科衛生士の受け入れに向けて ～衛生士不足解消のキーワード「ES」～



常務理事
大字 崇 弘

平成28年度は茨歯会立歯科専門学校衛生士科の卒業生数43名に対し、県内外より併せて672件、972人の求人が寄せられました。未だ歯科衛生士が足りないという声を聞かない日はなく、その解消を新卒生の輩出に期待することは非常に困難な状態で、「募集しても問い合わせすらない」という声を耳にすることも少なくありません。平成23年に茨歯会が会員に対して行ったアンケートで457名の先生のうち50名（11%）の先生が「衛生士を募集しても来ないからあきらめている」と回答しています。茨歯会では未就業歯科衛生士に向けた復職支援講習会を開催していますが、講習会開催の情報や歯科の窮状がどこまで届いているのか検証の手だてがないのが現状となっています。

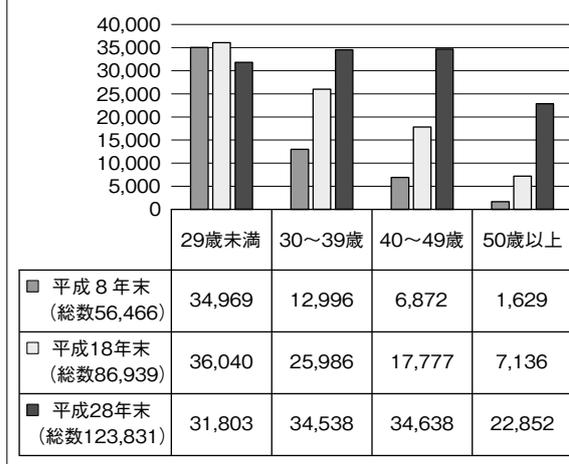
現在の状況

歯科衛生士の平成28年末の免許登録者数は約26万人、その内就業者数は約12万人で歯科診療所は6万9千ですから1診療所当り約1.7人。茨城県では診療所数1,978に対し就業歯科衛生士数が2,179名、1診療所当り約1.1名で、全国的に見てもかなり少ない方になっています。

歯科衛生士数20年の変遷

平成28年の就業歯科衛生士数を年代別に見ると20代、30代、40代は概ね均等に分布しています。平成8年の就業歯科衛生士の半分以上が20代でしたので、その後の20年で30代以降の歯科衛生士の就業者数が大きく増加したことになります。特に50歳代以上では20年で1,629人から22,852人へと14倍の増加率を示しており、50代でも働けると言う意識が歯科衛生士のなかに定着してきていることがわかります。

年齢階級別にみた就業歯科衛生士数の
年次推移



一方診療所数は平成8年から平成28年までの20年間で59,357から68,940と1.2倍の増加にとどまっていることに対し、歯科衛生士の就業者数

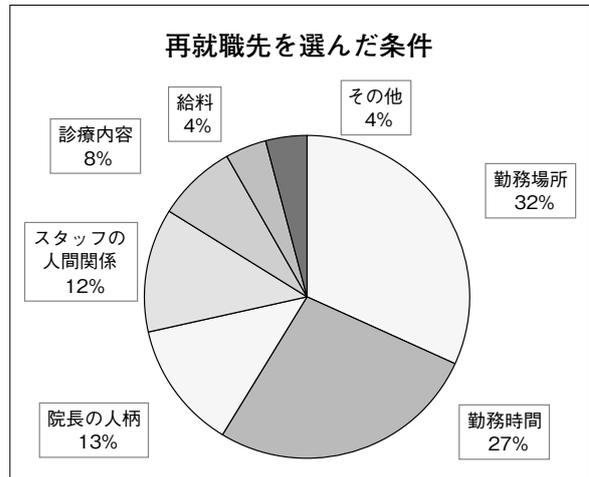
は34,969から68,940と約2.2倍になっています。

また日本歯科衛生士会の調査では、歯科衛生士の就業形態の変化について常勤の割合が減少し、非常勤の割合が増加していると解説していることから、20年間で歯科衛生士の就業者数は2.2倍に増加したが、それは30代以降の非常勤の歯科衛生士の就業率が上がった事による結果と言えるでしょう。

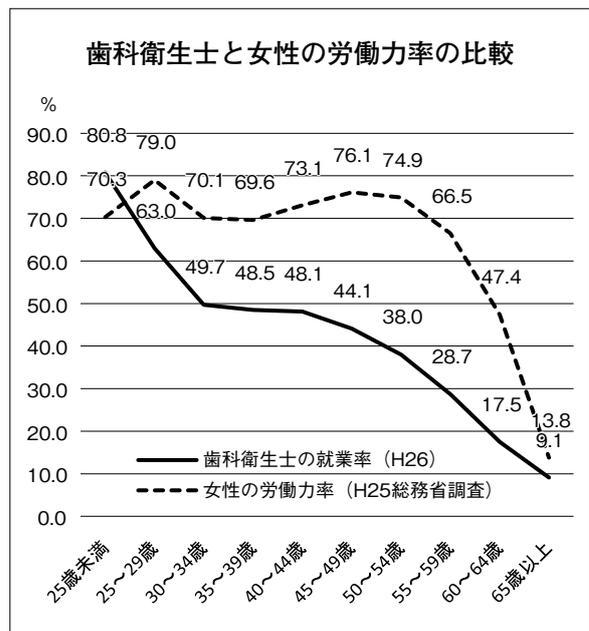
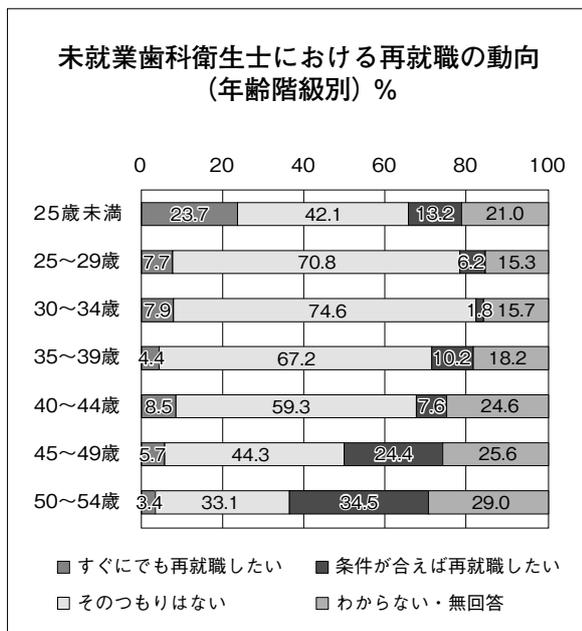
未就業歯科衛生士が求めるもの

有資格者の半分以上が未就業であるという現実から、歯科衛生士不足という問題の解決には有資格者の復職が不可欠であることは誰の目にも明白です。未就業歯科衛生士に対し日本歯科衛生士会が行った「歯科衛生士の勤務実態調査」の報告書によると、年代別の離職の原因として「出産・育児」が30代で、「家庭の事情」「介護」が40代以降でそれぞれ高い割合を示しました。一方で再就職に関しては「すぐにでも再就職したい」「条件が合えば」が高い割合を示し、茨歯会が行っている復職支援講習会受講者へのアンケートと同様な結果を得ています。

また再就職先を選ぶに当たっては給料ではなく自宅から近いことや、勤務時間が自分のライフスタイルに合っているかどうかを重要な条件としていることも、茨歯会のアンケートと同じ結果になっています。



働く女性達が20代、30代の間に結婚、出産などにより一時的に職場から離脱することがあってもそれはやむを得ないことですが、問題はその後職場復帰する歯科衛生士の割合が一般女性に比べて低いということです。以下に歯科衛生士と女性の労働力率の比較（年齢階級別）を示します。



女性の労働力は、20～30歳代を中心に出産・育児により一時低下しますが、子育てが一段落した40歳代からの復職により回復するM字カーブを示します。しかし歯科衛生士は年齢とともに就業率は低下していき、他の職種より復職しないことがうかがえます。

ES（従業員満足度）のために

歯科医院が安定した医療を国民に提供するためには、歯科衛生士の存在が不可欠です。そのために私達歯科医院側は、歯科衛生士がそのライフステージの中で女性として一時的に職場を離れることがあり得るということを、マイナスのイメージとしてではなく自然のこととして認識することが必要と思われます。そして歯科衛

生士獲得のためには非常勤としての職場復帰の場と長く勤務できるような労働環境を提供し、歯科衛生士に選ばれる歯科医院へと変化していく必要があるのではないのでしょうか。

古くからCS（顧客満足度 Customer Satisfaction）が企業や組織の成長に重要な要素であることは知られていましたが、さらに最近ではES（従業員満足度 Employee Satisfaction）とCSには相関関係があることが研究により示され、ESの重要性が業種を問わず注目されてきています。未だ眠っている半分の歯科衛生士に職場復帰を促すこととともに、歯科衛生士が求めるESを歯科医院側が提供していくことが、歯科衛生士不足解決の大きな鍵となっているようです。



株式会社 岩瀬歯科商会



イワセオリジナルユニット
SIGNO NEXT



株式会社岩瀬歯科商会
Iwase Dental Supply Inc.

昭和の幕開けと共に栃木県で創業した弊社は、今年で90年目を迎えます。皆様方への感謝を忘れず、未来を見据えた歯科ディーラー像を創造して参ります。

■ 会社名称 株式会社岩瀬歯科商会
■ 設立年 1931年
■ 所在地 栃木県宇都宮市
■ 代表取締役 岩瀬 隆夫
■ 代表取締役 岩瀬 隆夫
■ 代表取締役 岩瀬 隆夫

製造販売・製造
株式会社モリタ東京製作所
本社〒100 東京都千代田区千代田1-1-1 TEL.03-5561-1315
伊原工場 埼玉県北足立郡伊原町小室1129 TEL.048-723-2621

発売
株式会社モリタ
大阪本社 大阪府吹田市豊水區3-33-18 TEL.06-6350-2525
東京本社 東京都台東区上野2-11-15 TEL.03-3834-6161

事業所案内

本社	台東区台東2-23-7	TEL.03-3832-8241
宇都宮支店	宇都宮市平出工業団地37-6	TEL.028-613-5858
水戸支店	水戸市白梅2-8-18	TEL.029-225-6543
松戸支店	松戸市幸谷観音下159-1	TEL.047-345-3131
千葉支店	千葉市中央区浜野町879-1	TEL.043-305-1182
上野支店	台東区台東2-23-7	TEL.03-3832-8241
古河支店	古河市下山町9-60	TEL.0280-30-1582
福島支店	福島市鎌田字卸町4-1	TEL.024-552-1161
世田谷支店	世田谷区玉川台2-11-17-101	TEL.03-5491-7595
練馬営業所	練馬区豊玉北4-14-11	TEL.03-5912-1180
横浜支店	横浜市栄区小菅ヶ谷1-28-9-101	TEL.045-895-3808
5月GW明け以降	横浜市磯子区中原2-1-19 (NEW)	TEL.045-770-4182
前橋支店	前橋市紅雲町1-22-2	TEL.027-243-8241
5月GW明け以降	高崎市京目町176-2 (NEW)	TEL.027-350-8241
厚木支店	厚木市酒井2087-14	TEL.046-228-5550
大宮支店	さいたま市見沼区東大宮7-41-1	TEL.048-688-1740
盛岡支店	盛岡市上堂1-6-5	TEL.019-648-2777
東大和支店	東大和市立野3-640-1	TEL.042-590-5770

会務

新年会開催

1月18日（木）午後4時から、水戸プラザホテルにおいて、恒例の茨歯会新年会が大井川知事はじめ国会議員、関係団体などから約100名の方々のご出席を得て盛大に開催された。

国歌斉唱のあと、挨拶に立った森永会長は「今年1年間、どのようなかたちで行動を起こそうかと考えました。



一つは、専門的な口腔ケアの充実を図ろうと、今、肺炎で亡くなる方が第3位を占めているということです。そのうちの7割が誤嚥性肺炎で、そのうちの6割が口腔に関する不摂生で誤嚥性肺炎が起きているということ。我々は専門的な口腔ケアというものをしっかりと県民に訴えていかなければならないと考えております。

もう一つは、歯周病対策、これを県民に今年、講演を含めて進めていきたいと考えております。歯周病菌が生活習慣病の大半、殆どの病気に関与しているということがございます。認知症についても今まではあまり歯科は関係ないと考えていましたが、今、歯周病をはじめ、噛むことの大切さ、これが認知症に対して大いに影響することが言われております。これは、第7次医療計画の中でも、茨城県でもしっかりとやっていきたいと

考えております。

三つは、今回の105年に向かって、行動改革というものを今年の信念にして行きたいと思っております。去年の5月には経済諮問委員会がありまして、その中で、歯科の実態をもう少し考えるべきというような提言も頂き、そしてそれに向かって、8月には今までの3倍以上の10億を超える概算要求が出されて来ている。今までは、歯科口腔保健推進室というのがありましたけど、これが、訓令室から省令室に昇格した。これは非常に大きなことだと。企画に参画できないというのはどういうことなのかということ、日本歯科医師会の中で申し上げ、それを努力していただいて、厚労省も認めてくれたのだらうと思います。



祝辞では、大井川知事が、「森永会長はじめ、皆様のご活躍を持って、たとえば土浦の口腔センターの移転開設などによって心身障害者の皆様方の診療に便宜を図るなど様々な努力をされているということで、大変感謝申し上げます。実は私は歯医者さんが嫌いなのです。あのキンキンする音で削られるのがもう恐怖で嫌で嫌で、私は、あのキーンという削る音を聞かないように、

必ず歯医者さんに行って、80歳で20本というのを目指して、しっかりと歯のクリーニングをしようと思っています。健康寿命が重要視されて、歯がまさに基本であるわけですので、人間にとっての健康の一番の大きなポイントだと思っています。」と。続いて、額賀福志郎衆議院議員、岡田広参議院議員、石井みどり参議院議員が祝辞を述べ、諸岡信裕県医師会会長の乾杯の発声により祝宴となった。

アトラクションではフルートとハープの演奏があり、晴れやかな新春の祝いをより一層盛り上げた。



原稿募集

身近な出来事から臨床まで皆さまのご意見・感想を載せてみませんか。

「茨歯会報」は会員皆さまの会誌です。臨床におけるヒントや趣味、旅の思い出など、また地区歯科医師会や同好会・同窓会の様々な活動（研修会、厚生事業）など何でも結構です。会報をフルにご活用下さい。

Eメールの投稿で結構です。形式はどんな形式でもかまいませんが、出来ればテキスト、ワード、一太郎、にてお送り下さい。

詳しくは、茨歯会事務局まで。

E-mail id-05-koho@ibasikai.or.jp

広報委員会

理事会報告

第11回理事会

日 時 平成30年1月18日（木）14時

場 所 水戸プラザホテル 会議室

1. 報 告

- (1) 一般会務報告
- (2) 茨城県内市町村の国民健康保険における被保険者証様式の変更について
- (3) 後援名義の使用申請 第26回歯科医学会
- (4) 日本スポーツ歯科医学会認定マウスガード研修施設の申請について
- (5) 各委員会報告について

2. 協議事項

- (1) 入会申込みの受理について
齋間 洋甫氏（県南地区）の入会を受理した。
- (2) 三反田歯科クリニック石綿労災について
標記石綿労災について、承認した。
- (3) 食生活改善に向けた保健指導者研修会の開催について
標記研修会開催について、承認した。
- (4) いきいき茨城ゆめ国体・いきいき茨城ゆめ

大会実行委員会宿泊・衛生専門委員会に係る委員推薦について

標記宿泊・衛生専門委員会に係る委員推薦について、小林常務理事に決定した。

- (5) 国体支援依頼について

標記国体支援依頼について、継続して審議することとした。

- (6) 新年会について

各役員、職員の役割を確認した。

会務日誌

- 1月18日 専門学校において第1回一般入学試験を実施。歯科衛生士科に対し7名の受験者があり、同日の合否判定により6名を合格とした。なお、技工士科への受験者はなかった。
- 1月18日 第11回理事会を水戸プラザホテルにて開催。入会申込みの受理、三反田歯科クリニック石綿労災、食生活改善に向けた保健指導者研修会の開催、国体実行委員会宿泊・衛生専門委員会に係る委員の推薦、国体支援依頼、新年会について協議を行った。
出席者 森永会長ほか18名
- 1月18日 第10回広報委員会を開催。会報2月号の校正、会報3月号編集について協議した。
出席者 飯島広報委員長ほか5名
- 1月18日 第3回国体実行委員会 宿泊・衛生専門委員会が県食品衛生センターにて開催され、第74回国民体育大会医療救護要項ほかについて協議が行われた。
出席者 荻野茨城スポーツ・健康づくり歯学協議会プロジェクトチーム委員長
- 1月18日 県要保護児童対策地域協議会保健・医療部会が県庁舎にて開催され、本県における要保護児童対策の現状ほかについて協議が行われた。
出席者 小林常務
- 1月19日 いばらき食育推進大会が県民文化センターにて開催され、表彰の後、パネルディスカッション、展示・販売、特別講演、が行われた。
出席者 藤田
- 1月20日 都道府県医療安全担当理事連絡協議会が日歯会館にて開催され、歯科診療所における院内感染対策、HIV感染者歯科診療ネットワーク構築の推進について協議が行われた。
出席者 村居常務
- 1月20日 平成29年度医療安全研修会が日歯会館にて開催され、2題の講演が行われた後、都道府県歯科医師会（7県）からの取り組み状況が発表され、歯科診療所の医療安全に繋げていく方策について意見交換を行った。
出席者 村居常務ほか2名
- 1月21日 医療事故調査制度研修会が日歯会館にて開催され、3題の講演、歯科における対応事例についての研修が行われた。
出席者 村居常務
- 1月21日 県歯科衛生士会の新年会が水戸三の丸ホテルにて開催された。
出席者 森永会長ほか1名
- 1月23日 県学校保健・学校安全研究大会が県民文化センター大ホールにて開催され、よい歯の学校などの学校保健・学校安全関係表彰の後、実践発表、その後に「学校保健のフロンティア」～未来に生きる子どもたちの健康を守り育てる～の演題で講演が行われた。

なお、席上、田所重映氏（日立市）ほか13名が県学校保健会長表彰を受けられた。

出席者 森永会長

1月24日 新規指定の個別指導が厚生局茨城事務所にて実施された。

対象医療機関数 4

1月24日 都道府県地域保健・産業保健・介護保険理事連絡協議会が日歯会館にて開催され、医療提供体制改革のための新たな財政支援制度（基金制度）をはじめとする歯科医療・保健への対応ほかについて協議を行った。

出席者 小野寺理事ほか1名

1月25日 保険医療機関を対象としての個別指導が厚生局茨城事務所にて行われた。

対象医療機関数 3

1月25日 第10回地域保健委員会を開催。噛むかむレシピ審査会、歯科医学会について協議が行われた。

出席者 北見理事ほか6名

1月25日 「噛むかむレシピコンテスト審査会」を開催。歯や口の健康のためによく噛むメニューの応募レシピ（602作品：小学生以下の部196、中学生・高校生の部301、一般の部105）から審査により、噛むかむレシピ賞12作品を決定した。

出席者 中川学園調理技術専門学校 料理教室代表ほか7名 森永会長ほか10名

1月26日 県食育支援連絡会が県庁舎にて開催され、茨城県食育推進計画（第三次）に基づく食育推進事業ほかについて協議を行った。

出席者 藤田

1月27日 県栄養士会の新春懇談会がホテルウェストヒルズ水戸にて開催された。

出席者 森永会長

1月28日 口腔センターの主催により障害児・者歯科講習会を霞ヶ浦医療センターにて開催。「発達障害の理解と支援」と題して我孫子市こども発達センター臨床心理士の十川奈緒子先生が講演された。

出席者 49名

1月29日 第2回県医療審議会医療法人部会が県庁舎にて開催され、医療法人の設立認可ほかについて審議が行われた。

出席者 森永会長

1月30日 新春合同政経懇話会が水戸プラザホテルにて開催された。

出席者 森永会長

1月31日 （日歯）予算決算特別委員会が日歯会館にて開催され、第187回代議員会の議案審査ほかについて協議が行われた。

出席者 征矢日歯予算決算特別委員ほか1名

1月31日 県医師会警察医部会法医学研修講演会を県医師会にて開催。科学捜査研究所上席鑑定官の永山剛先生が「警察におけるDNA型検査」について、科学捜査研究所長の宮田勝文先生が「薬毒物検査」についてそれぞれ講演された。

- 出席者 櫻川防災危機小委員長ほか4名
- 2月 1日 第7回厚生委員会が行方市内にて開催され、関東地区歯科医師会ゴルフ大会、歯科医学会企画について協議を行った。
- 出席者 増本厚生部長ほか8名
- 2月 2日 学校保健推進協議会が県医師会にて開催され、がん教育講演会における講師依頼について協議が行われた。
- 出席者 森永会長ほか2名
- 2月 3日 第2回介護保険委員会が日立市内にて開催され、次年度事業計画について協議した。
- 出席者 小野寺介護保険部長ほか7名
- 2月 4日 介護保険講習会を日立歯科医師会との共催により、ホテル天地閣にて開催。「口から食べる幸せをサポートする包括的支援スキル」をテーマに伊勢原協同病院摂食機能療法室看護師の小山珠美先生が講演された。
- 受講者 150名
- 2月 6日 県地域・職域連携推進協議会が県立健康プラザにて開催され、特定健康診査・特定保健指導の取り組みほかについて協議が行われた。
- 出席者 北見理事
- 2月 6日 (日歯) 予算決算特別委員会第1回小委員会が日歯会館にて開催され、報告書の作成について協議が行われた。
- 出席者 征矢日歯予算決算特別委員
- 2月 7日 第4回いばらき高齢者プラン21推進委員会が県庁舎にて開催され、「いばらき高齢者プラン21第7期」の最終原案について協議が行われた。
- 出席者 森永会長
- 2月 7日 第10回社会保険正副委員長会議を開催。第10回委員会、監査、指導、理事会、審査内容、改定説明について協議した。
- 出席者 榊社会保険部長ほか2名
- 2月 7日 第10回社会保険委員会を開催。改定説明、疑義について協議を行った。
- 出席者 榊社会保険部長ほか19名
- 2月 7日 第3回四師会災害等連携協定ワーキンググループ会議が県医師会にて開催され、第4回JMAT茨城研修会について協議が行われた。
- 出席者 征矢副会長ほか3名
- 2月 8日 第5回茨城スポーツ・健康づくり歯学協議会プロジェクトチーム委員会を開催。国体協賛金、日本スポーツ・健康づくり歯学協議会、いばらきスポーツデンティストの認定、次年度いばらきスポーツデンティスト養成講習会、マウスガード講習会、国体救護所派遣マニュアル、SHPいばらきマウスガード啓発リーフレット、会場設置用パネル・のぼりについて協議を行った。
- 出席者 荻野茨城スポーツ・健康づくり歯学協議会プロジェクトチーム委員長ほか8名
- 2月 8日 労働保険事務組合事務担当者会議がホテルテラスザガーデン水戸にて開催された。

出席者 須能

2月 8日 第2回講師会を開催し、卒業判定及び単位認定、成績優秀者・皆出席者・特待生の選考、次年度行事日程等について協議を行った。

出席者 征矢校長ほか20名

2月 8日 第2回学校運営委員会を開催。学則等一部変更及び次年度入学試験、オープンキャンパス、体験入学日程等について協議を行った。

出席者 森永学校運営委員長ほか11名

2月 8日 第2回センター運営委員会を開催。次年度事業計画（案）について協議した。

出席者 森永口腔センター運営委員長ほか10名

2月 9日 茨城政経懇話会2月例会がホテルテラスザガーデン水戸にて開催された。

出席者 森永会長

医療+管理委員会 だより

復職支援講習会 in 古河

医療管理委員会 初見 謙介

平成30年1月11日木曜日、西南地区の復職支援講習会が開催されました。

西南地区では昨年の境町に続き第2回目の講習会となりました。会場は古河市の渡辺潔先生のご協力により、わたなべ歯科クリニックをお借りして、講師は茨城県歯科衛生士会の岩村昌子副会長にお願いしました。

茨城西南歯科医師会からは医療管理厚生委員会委員である渡辺潔先生、鈴木哲之先生と奥様で歯科衛生士の鈴木晴子さん、オブザーバーとして県歯の医療管理委員の渡邊伸哉先生、大貫範生先生にご協力をいただき、1名の受講生を迎えて10時から12時まで講話と実技による講習が行われました。

まず岩村講師から歯科衛生士業務の現状について、特に患者の高齢化が進んでいる中、衛生士の役割の幅も広がってきており、責任もあるがやりがいのある領域であり、歯科診療所は衛生士を今

まで以上に必要としているので是非現場復帰してもらいたいとお話がありました。続いて衛生士業務の核となるスケーリング・ルートプレーニングの実習。プロービングの説明から始まりプロービングデプスの計測の実技、キュレットや超音波スケーラーを用いてのSRPおよび歯面研磨を行いました。慣れないユニット操作や久しぶりの実技で最初は緊張感もあったようですが、岩村先生の適切なアドバイスや参加された皆様の補助のおかげで和やかな雰囲気の中充実した実習となりました。

その後参加者全員で講義内容についての質疑応答や、茨城県歯科医師会のホームページに紹介されている求人情報をみながら復職相談を行いました。詳しく伺ってみると復職を希望しているものの、小学校1年生のお子さんがいらっしゃるもので、午前中の勤務を希望しているそうです。歓談のなかでそのような話が聞けたのもこの講習会の



意義かと感じました。受講者は古河市在住であり午前中の勤務希望なので復職先の具体的なアドバイスは難しいと思われました。希望に合うような求人も過去にあったので、あきらめずに待っていてほしい旨お伝えいたしました。

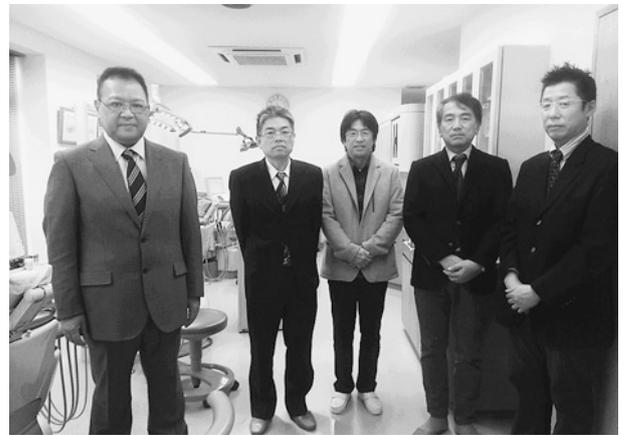
今後も各地区で同様の講習会が行われますので、会員の皆さまにおかれましては復職支援にご協力・ご理解いただき、県歯科医師会から送付されてくる復職支援講習会のポスターを待合室の目

立つところに掲示してくださいますようお願い致します。

また県歯ホームページの無料求人サイトの活用もお願い致します。

茨歯会無料職業紹介所

<http://work.ibasikai.or.jp/>



一般社団法人日本学校歯科医会 「学校歯科医生涯研修制度 基礎研修」参加報告

学校歯科委員会 加藤 昌裕

平成30年2月4日（日）午前10時より千代田区九段の歯科医師会館において、「学校歯科医生涯研修制度 基礎研修」に椎名和郎学校歯科委員長と加藤が参加致しましたのでご報告致します。

主催：一般社団法人日本学校歯科医会

後援：公益財団法人日本学校保健会

開会の発声後、挨拶、講師紹介を経て10時20分から開催

講義Ⅰ：「学校歯科保健の概念」についての解説

（講師：一般社団法人日本学校歯科医会

常務理事 野村圭介）

講義Ⅱ：「学校歯科保健における保健教育」についての解説

（講師：東京女子体育大学 教授 戸田芳雄）

講義Ⅲ：「学校歯科保健における保健管理」についての解説

（講師：東京医科歯科大学 名誉教授 黒田敬之

講師：明海大学 学長 安井利一）

講義Ⅳ：「学校歯科保健における組織活動」についての解説

（講師：元東京都中央区立黎明小学校校長・

同幼稚園長／元 東京都教職員研修センター

研修指導員 木暮義弘）

の順で行われました。

○改定、見直しの要点

（歯列・咬合・顎関節の健診に際し平成28年4月1日からの変更点の要点）

1. 小学校時の健康診断を、低学年（1～2年）、中学年（3～4年）、高学年（5～6年）に区分し、発達段階に即した健診基準を設定した。
2. 保健調査票の導入。教育効果の増大を図る。
3. 将来のリスクの理解を含め、みずから健康の啓発。

○保健調査票（歯列、咬合、顎関節）

1. 具合の悪いと思うところの有無
2. 人から歯や口元を見られるのが気になる
3. 噛みにくいと感じている
4. 歯並び・かみ合わせがだんだん悪くなっているのでは
5. 口の開閉がしにくい、開けにくい、音がする



6. 口をぶつけたことがある
7. 本人が治療したいと思っている
8. 保護者も気にしている
9. 食事の時間が長くかかる
10. 食べ物に好き嫌いがある

○歯列・咬合異常に対する基本的な判定基準

1. 下顎前突 2歯以上
2. 上顎前突 7～8mm以上（通常のデンタルミラーの直径の半分以上）
3. その他（上記以外の状態で特に注意すべき咬合並びに特記事項）

①過蓋咬合 ②交叉咬合 ③鉗状咬合 ④反対咬合（逆被蓋）たとえ1歯でも咬合性外傷が疑われたり、歯肉退縮が見られたり、動揺の著しいもの。⑤軟組織（上唇小帯、舌小帯、頬小帯、口蓋など）の異常。⑥左右同名歯の著しい萌出程度の差、過剰歯、異所萌出歯、萌出遅延など。⑦限局した著しい咬耗、早期接触による顎変位、習癖、発音異常、運動制限、鼻疾患

*発達段階に対応した留意点

学校歯科医としての経験などにより、判定を1にするか2にするかが異なるのは当然である。

数値的に示すことは必ずしも有効ではない。むしろ、子供の将来の健康にとってどのようなリスクを持つ可能性があるかを説明し、理解させることが大切である。

健康相談、保健指導を重視した今回の改訂の意図を反映するところである。

1. 幼稚園・小学校低学年：前歯交換期。成長予測が難しい。習癖に注意。
2. 小学校中学年：側方歯群交換期。乳歯晩期残存。アーチレングスディスクレパンシー。
3. 小学校高学年：不正咬合の顕在化。顎関節機能異常に注目。
4. 中学校：骨格性問題の顕在化。
5. 高等学校：不正咬合（不調和な咬合）に対する個別指導、健康相談。
6. 特別支援学校：基本的な口腔保健指導。個別指導レベルの差に注意。

大切なことは矯正治療の判断ではない。健康維持増進の上で、保健教育の視点からの教育、指導し、認識させることにある。

○事後措置のポイント

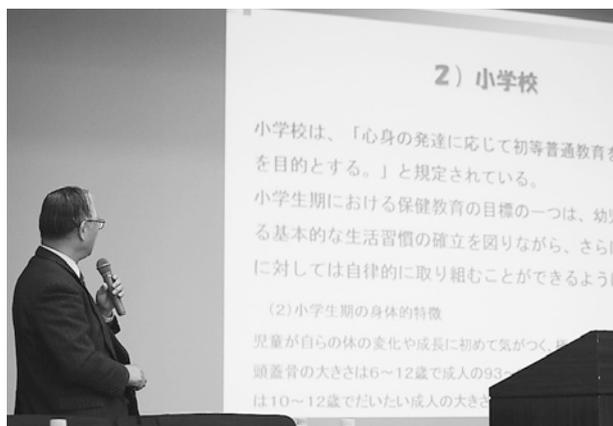
- ・集団保健指導：健康教育、講話
- ・個別指導：定期的観察の意義、リスクとの関係と家庭、児童・生徒の理解

日常生活での注意事項

食生活への助言

生活習慣への助言

心のケア



○顎関節の診査基準

保健調査票をもとにあらかじめリストアップされた児童生徒を検診時にチェック。

開口障害、関節雑音、開閉口時の顎関節部の痛みの存在をチェック。

顎関節症は、上記所見があり他の関節疾患に分類出来ない疾患を症候群として命名したものの。病態に多様性。

事後措置としての生活指導、食生活指導、精神的ケア。

質疑応答の後、定刻通り午後1時に閉会となりました。

前回の改訂から大きな変更はありませんでしたが、内容確認の為、次回の基礎研修会には沢山の皆様のご参加をお願い致します。



一般社団法人日本学校歯科医会 「学校歯科医生涯研修制度 更新研修」 参加報告

学校歯科委員会 椎名 和郎

平成30年2月4日（日）14：30より東京都千代田区の歯科医師会館1階大ホールにて開催された「学校歯科医生涯研修制度 更新研修」に参加してきましたので報告します。

開会 一般社団法人日本学校歯科医会
専務理事 長沼善美 先生
挨拶 一般社団法人日本学校歯科医会
会長 川本強 先生

講師紹介・日程説明

一般社団法人日本学校歯科医会
常務理事 竹内純子 先生

講義 「教育関連法規等と学校歯科保健」

講師：一般社団法人日本学校歯科医会
常務理事 野村圭介 先生

1. 教育関連法規を学ぼう

日本国憲法第23条、教育基本法、学校教育法、学校教育法施行令、学校教育法施行規則、学習指導要領、学校保健安全法、学校保健安全法施行規則などについての説明がありました。

2. ポイントについて理解しよう

今回改定のあった

①新学習指導要領

②第2次学校安全推進に関する計画

③第3次食育推進計画

④第2期スポーツ基本計画

について説明がありました。

①新学習指導要領についてですが、これは幼稚園で平成30年から、小学校では平成32年から、中学校では平成33年から、高等学校では平成34年から実施されます。学校歯科保健に関係することで重要なのは「育成すべき資質・能力の三つの柱」で以下のようなものです。

・知識・技能：何を理解しているか、何ができるか

（歯科保健では、例えば、歯肉炎やむし歯の原因を理解する。正しくブラッシングができるなど）

・思考力・判断力・表現力等：理解していること・できることをどう使うか

（歯科保健で例えると、歯肉炎やむし歯の予防のために必要な生活習慣を考え、適切に意思決定し、行動するために必要な力を身につける）

・学びに向かう力・人間性等：どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか

（健康や食、安全に関する様々な課題に関心を持ち、主体的に自他の健康で安全な生活や健全な食生活を実現しようとしたり、健康安全な社会づくりに貢献しようとした

りする態度を身につけていること)

②第2次学校安全推進に関する計画

ここでは那須の高校生雪崩遭難事故について事故調査にあたられた東京女子体育大学教授 戸田芳雄先生のお話があり、「『あの人が大丈夫と言ったから大丈夫だろう』『今まで大丈夫だったから今回も大丈夫だろう』というような『大丈夫だろう』の積み重ねが事故を招いてしまった。とにかく安全確認は各自が責任を持ってやらなければならない。絶対に事故は起こしてはいけない。」とおっしゃっていました。

③第3次食育推進計画

第3次食育推進計画において、「食育を通じた健康状態の改善等の推進」の中で、栄養教諭と連携して、「学校歯科医」がやせや肥満などの健康状態の改善に必要な知識を普及するとともに個別の健康相談を行うとして、初めて「歯科医」という文言が記載された。また、第2次食育推進基本計画では「食べ方に関心をもってもらう」だったのが、第3次では具体的な行動変容の目標として「ゆっくり噛んで食べる国民を増やす（49.2%→55%以上）」というようになった。

④第2期スポーツ基本計画

ここでは第1期にあった「マウスガード



の着用の効果等の普及啓発を図る」という文言が第2期では削除されてしまった。明海大学学長 安井利一先生によれば「費用がかかるとというのが外された理由らしいが、引き続きマウスガードの普及に力を入れて欲しい」とのことでした。

付録1：就学時健康診断マニュアルの改訂

平成29年度就学時健康診断マニュアル改訂委員会が、来年度からの実施に向けて改訂作業を進めている。

歯科ではCOを検出するとともに、「う蝕多発傾向者」の設定を行った。また虐待・ネグレクトについて記載された。

<検診の方法と判定>

・う蝕（う蝕数）：う蝕は、乳歯、永久歯ともに未処置歯または処置歯に区分し、それぞれの欄に該当歯の数を記入する。

（注）要観察歯（CO）は学校での管理、保健指導があって区分されるべきもので、就学時の健康診断ではこの対応が十分でないために区分しないとしていたが、学校保健安全法の改定を踏まえて、地域の医療機関との連携の中でより積極的な専門家による管理・予防を促すような方向性で改訂することとした。

・う蝕多発傾向者：歯科疾患管理料におけるう蝕多発傾向者の判断基準（5～7才）を準用し「歯冠修復終了歯が、乳歯3歯以上または永久歯1歯以上で、COが検出されたものとし、保護者に保健指導を行うとともに地域の歯科医療機関との連携を促す。」と定義し、その旨を担当歯科医師所見欄に記載することとした。

この後質疑応答があり最後に、一般社団法人日本学校歯科医会理事 赤松俊嗣先生の閉会の言葉で終了となりました。

付録2：学校歯科医生涯研修制度施行細則 変更について

（変更前）8 更新研修は基礎研修有効期間終了後1年以内に受講しなければならない。

（変更後）8 更新研修は基礎研修有効期間終了までに受講するものとする。

なお、「一般社団法人日本学校歯科医会 学校歯科医生涯研修制度 平成29年度からの改訂ポイントについて」は茨城県歯科医師会HP > 会員専用 > 茨歯会資料室・学校歯科委員会 > 日学歯生涯研修制度に掲載してあります。



文部科学省 平成29年度学校保健統計調査速報(歯科部分抜粋)

単位 (%)

(男女合計)

(男)

(女)

区分	歯・口腔						歯・口腔						歯・口腔										
	むし歯(う歯)		顎関節	歯垢の状態	歯肉の状態	疾病の ・他 異常の	むし歯(う歯)		顎関節	歯垢の状態	歯肉の状態	疾病の ・他 異常の	むし歯(う歯)		顎関節	歯垢の状態	歯肉の状態	疾病の ・他 異常の					
	完了者	未処 置者					完了者	未処 置者					完了者	未処 置者					完了者	未処 置者			
幼稚園	35.45	21.60	0.13	0.84	0.39	2.19	36.93	14.22	22.71	3.37	0.13	0.98	0.38	2.13	33.93	13.47	20.47	3.65	0.12	0.71	0.40	2.25	
計	47.06	24.07	0.11	3.02	1.91	6.79	48.72	24.81	23.91	4.17	0.11	3.48	2.17	6.70	45.31	23.29	22.02	4.66	0.11	2.54	1.64	6.88	
小	41.49	17.27	0.05	1.18	0.59	5.77	42.54	17.63	24.91	2.37	0.05	1.10	0.53	5.49	40.38	16.90	23.48	3.16	0.05	1.26	0.64	6.06	
7歳	47.76	22.81	0.10	2.36	1.22	5.43	48.81	23.18	25.63	3.76	0.10	2.56	1.30	5.44	46.66	22.43	24.23	4.34	0.09	2.14	1.13	5.42	
8歳	53.50	27.39	0.09	3.27	1.81	5.38	54.98	28.05	26.93	4.56	0.11	3.57	1.95	5.23	51.94	26.70	25.24	5.03	0.07	2.95	1.66	5.55	
9歳	53.44	28.81	0.13	3.52	2.22	7.26	55.77	30.14	25.63	4.70	0.12	4.08	2.48	6.88	51.00	27.42	23.58	5.19	0.13	2.92	1.93	7.67	
10歳	47.92	26.37	0.13	4.03	2.77	8.94	50.28	27.45	22.83	4.85	0.13	4.83	3.30	8.75	45.45	25.25	20.21	5.07	0.13	3.19	2.22	9.14	
11歳	37.93	21.53	0.16	3.74	2.86	7.89	39.62	22.20	17.42	4.78	0.14	4.72	3.44	8.39	36.15	20.82	15.33	5.18	0.18	2.71	2.25	7.37	
計	37.32	21.12	0.32	4.56	4.04	4.25	35.99	19.82	16.17	4.51	0.27	5.51	4.88	4.72	38.72	22.48	16.24	5.01	0.37	3.56	3.16	3.76	
12歳	34.87	19.94	0.26	4.23	3.55	6.10	33.88	18.76	15.12	4.64	0.24	5.13	4.17	6.81	35.90	21.17	14.74	5.16	0.29	3.28	2.90	5.36	
13歳	37.03	21.09	0.32	4.58	4.04	3.96	35.57	19.87	15.69	4.34	0.26	5.50	4.89	4.42	38.57	22.36	16.20	4.88	0.40	3.62	3.16	3.49	
14歳	39.97	22.28	0.36	4.85	4.51	2.75	38.44	20.78	17.66	4.55	0.30	5.89	5.55	3.01	41.57	23.86	17.71	4.99	0.43	3.76	3.42	2.48	
計	47.30	27.63	0.62	4.85	4.53	1.13	45.94	25.47	20.47	4.25	0.49	5.82	5.44	1.06	48.69	29.84	18.85	4.58	0.75	3.85	3.60	1.20	
15歳	42.20	25.03	0.59	4.74	4.28	1.23	40.90	23.14	17.77	4.39	0.48	5.71	5.18	1.21	43.52	26.97	16.55	4.59	0.70	3.74	3.35	1.26	
16歳	47.27	27.49	0.63	4.96	4.64	1.14	45.91	25.34	20.57	4.28	0.50	5.79	5.41	1.07	48.66	29.69	18.97	4.67	0.77	4.11	3.85	1.22	
17歳	52.61	30.48	0.64	4.85	4.68	1.02	51.20	28.03	23.16	4.07	0.49	5.96	5.75	0.91	54.06	32.96	21.10	4.47	0.79	3.71	3.59	1.14	
区分	永久歯の一人当たり平均むし歯(う歯)等数						永久歯の一人当たり平均むし歯(う歯)等数						永久歯の一人当たり平均むし歯(う歯)等数										
	計	(本)	喪失 歯数	むし歯(う歯) 計	むし歯(う歯) 未処 置数	むし歯(う歯) 計	(本)	喪失 歯数	むし歯(う歯) 計	むし歯(う歯) 未処 置数	むし歯(う歯) 計	(本)	喪失 歯数	むし歯(う歯) 計	むし歯(う歯) 未処 置数	むし歯(う歯) 計	(本)	喪失 歯数	むし歯(う歯) 計	むし歯(う歯) 未処 置数	むし歯(う歯) 計	(本)	喪失 歯数
計	0.82	0.82	0.01	0.81	0.52	0.81	0.76	0.76	0.01	0.75	0.47	0.75	0.47	0.28	0.89	0.89	0.01	0.88	0.88	0.57	0.57	0.31	0.31
12歳	0.82	0.82	0.01	0.81	0.52	0.81	0.76	0.76	0.01	0.75	0.47	0.75	0.47	0.28	0.89	0.89	0.01	0.88	0.88	0.57	0.57	0.31	0.31

※このデータは、日学歯ホームページ 教材・資料よりダウンロードできます。



介護保険講習会

「口から食べる幸せをサポートする 包括的支援スキル」

日時：平成30年2月4日（日）

場所：ホテル天地閣

講師：看護師 小山珠美先生

J A 神奈川県厚生連伊勢原協同病院 摂食機能療法室

(社)日立歯科医師会 介護保険委員 須田 聡

今年度の介護保険講習会は、茨城県歯科医師会と日立歯科医師会の共催という形で行われました。摂食嚥下リハビリテーションの第一人者で、携わった患者の90%を摂食可能にするプロフェッショナルとしてNHKプロフェッショナル「仕事の流儀」にも出演されたJA神奈川県厚生連伊勢原協同病院摂食機能療法室の看護師 小山珠美先生を講師にお迎えして「口から食べる幸せをサポートする包括的支援スキル」というタイトルでご講演いただきました。以下、講演内容を要約します。

食べることは、空腹を満たし、栄養を摂り、潤いた喉を潤し、疲れを癒してくれる生命の源であり、幸せに生活する上での生きる権利である。しかしながら、誤嚥性肺炎や低栄養の懸念が先行し、安易な代替栄養の選択、貧相な食支援技術が蔓延化し、口から食べることの重要性和その支援体制が脆弱化してきたきらいがある。何よりも尊厳されるべき食べたい希望が叶わないでいる要介護高齢者が多く存在するようになった。

その背景には、医療における非経口的栄養療法の普及やハードルの高い嚥下機能検査、過度な医



療安全などが隠れ蓑となっていることも否めない。また、非経口栄養療法に慣れてしまうことで、食べられない苦痛を抱えている当事者やご家族に寄せる“医療・福祉従事者の思いやりの感度”が低くなっていることも挙げられる。さらに、特定の専門職種のみがある一定の場面のみで評価・診断を下していることが多く、評価場面と生活場面での乖離が生じ、評価や支援をする人の経験や力量も様々である。いくなれば、出会った専門家によって、「食べられる、食べられない」を左右されてしまうという不条理も起こっている。

口から食べるリハビリは、全身の医学的な管理に加えて、口腔・嚥下機能を含めた心身の調和が

不可欠である。特に急性期医療では、人工呼吸器、気管切開、静脈栄養・経腸栄養などのカテーテル類による全身管理、複合した合併症を持った患者が数多く存在する。そのため、合併症や廃用症候群予防のリスク管理と同時に、包括的なケアとリハビリを充実させていく必要がある。治療のみが優先されることで、多大なる廃用症候群を引き起こし、生活者としてのQOLを低下させることになる。

これまで、医療現場では、誤嚥性肺炎の予防および悪化のためのリスク管理として、絶飲食を前提とした非経口栄養が優先されてきた。特に、(誤嚥性)肺炎と診断された要介護高齢者の入院時は、「誤嚥性肺炎＝絶食」が急性期医療のスタンダードとなっているきらいがある。嘔吐症状、呼吸不全、喀痰多量といった危険因子がない場合、数日程度であっても、絶食状態は廃用性の機能低下を引き起こす。摂食嚥下機能のみならず、認知・身体活動性がさらに低下し、寝たきり状態への引き金となる。入院直後から適切な評価を行い、早期経口摂取へのアプローチが開始されなければならない。

本来のリスク管理とは、生活者としての廃用症候群を予防し、食べる機能を低下させず、QOLを高めていくことにこそ意義がある。つまりは、逃げの絶飲食という栄養管理ではなく、経口栄養を続けられるような支援技術を伴ったリスク管理が重要となる。

食べるリハビリを積極的に行っていくためには、早期経口摂取を前提として、絶飲食の期間を限りなく短くすることが肝要である。その上で、食事介助においては誤嚥予防を行い、食事の安定を図るための観察や援助を行う。安定した摂食姿勢、食物形態の調整、安全でセルフケア拡大を意図した食事介助技術などが挙げられる。加えて、食事以外での口腔ケアの充実、活動性への援助、栄養管理、合併症予防など包括的なケアやリハビリテーションを進めていくことが生活者としてのリス



ク管理として重要な位置づけとなる。

食べることが出来るか否かは、一つの要因だけで決まるわけではない。にもかかわらず、嚥下造影検査や嚥下内視鏡検査などの一側面で経口摂取は困難という評価が下されがちである。また、一旦口から食べることが困難と評価された人々が、再び口から食べるための支援体制やその技術力が脆弱な面も多々ある。加えて、認知症や心身が衰えていく終末期における食支援のありかたも再考しなければならない喫緊の課題である。

これまで食べる力の評価は摂食嚥下機能や栄養などの一部の身体機能に偏っており、心身の包括的な側面での多職種連携による評価と支援スキルが融合していなかった。

以上の観点から、口から食べるためのサポートを、摂食嚥下機能に加えて、QOLを勘案した生活

者としての包括的視点での評価と支援スキルが重要と考え、包括的支援スキルとして、観察からアセスメントと支援方法を導き出せる“口から食べるバランスチャート（Kuchikara Taberu Balance Chart：KTBC）”を開発した。KTBC開発の本意は、対象者の不足部分を補いながら、「どうすればより良く食べ続けることが出来るか！」という可能性や強みを引き出す包括的支援スキルとケアリングを内包することにある。そして、多職種で治療・ケア・リハビリテーションを双方向から同時展開できる手法である。

講演では実際にどのように食事介助を行うか、

大変細かく丁寧にデモンストレーションをしていただきました。また、肺炎で入院された患者さんに対して早期に経口摂取を始めた群が、そうでない群に比べ、入院日数が大幅に短縮されたことを先生が勤務する病院のデータを示しながらお話しされました。講演を通じて強く感じたことは、介助が必要になった患者さんを一人の人間として敬意をもって接する先生の姿勢でした。まさに「プロフェッショナル」だと思いました。講演は歯科医師以外に歯科衛生士、看護師、ケアマネジャー、介護士など150名の参加があり、盛況のうちに終了しました。当日参加してくださった皆様方、ありがとうございました。

初期治療における医療安全管理と 舌癌検診時の留意点及び粘膜疾患について

明海大学歯学部客員教授 町野 守 先生



(社)鹿行歯科医師会 本間 一哉

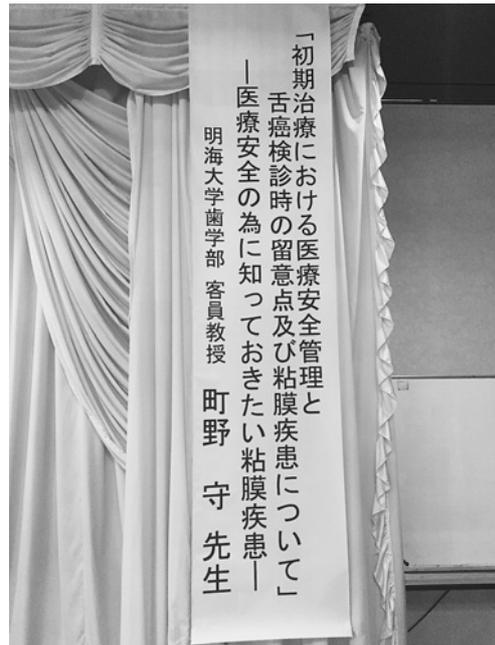
2017年7月29日 サンロード鹿島にて、鹿行歯科医師会地域保健委員会、医療管理委員会合同で主催した講演会が行われました。

鹿行支部以外からも多数の先生が参加され、会場は満席状態に。

簡潔にはありますが、その講演の内容についてご報告させていただきます。

- ・口腔粘膜疾患としては、舌に症状が見られるものが一番多く、舌癌、血管腫、骨性分離腫（骨腫）、舌膿瘍、膿原性肉芽腫、乳頭腫、正中菱形舌炎、猩紅熱、川崎病（急性皮膚粘膜リンパ節症候群）、肉芽腫性口唇炎、顔面神経麻痺、地図状舌、リンパ管腫、舌痛症、他

- ・ 歯肉に見られる悪性腫瘍
歯肉癌、線維肉腫、悪性黒色腫、他
- ・ 歯肉に見られる腫瘍性疾患
エプーリス、線維脂肪腫、線維腫、他
- ・ 口腔粘膜の白色病変
白板症、乳頭腫、他
- ・ ウィルスによる感染
単純ヘルペスウィルス（HSV I型、II型）→
疱疹性歯肉口内炎
Zoster virus→帯状疱疹
Coxsackie virus（A群）→
手足口病、ヘルパンギーナ
- ・ 血液疾患
再生不良性貧血、突発性血小板減少性紫斑病、
小球性低色素性貧血、他
- ・ 金属アレルギーの関与が考えられるもの
掌蹠膿疱症



- ・ 歯科治療によって起きたもの
ラバーによるラテックスアレルギー、マスクによる接触性アレルギー、ハイポアルコールを用いた皮膚消毒によるアレルギー、キューンの貧血帯、他
- ・ 天疱瘡、類天疱瘡、クローン病、Behcet病、他
多岐にわたる。

* 口腔癌の臨床型分類としては、表在型・外向型・内向型の3型に分類する臨床発育様式分類が、簡便で臨床病態をよく反映している有用な分類と考えられる。判定にあたっては下記の判定基準が平易で客観的な指標と考えられる。

- ・ 表在型：表在性の発育を主とし、上・下顎歯肉、硬口蓋においては骨の吸収を認めないもの
- ・ 外向型：外向性の発育を主とするもの
- ・ 内向型：深部への発育を主とするもの

鷺津の分類では、

- ・ 外向性腫瘍を白斑型、乳頭型、肉芽型
- ・ 内向性腫瘍はびらん型、潰瘍型、腫瘍硬結型



となる。しかし、発育形態と表層の性状の2面から分類されているため、客観的な判定が難しく判定に迷う症例も多く、報告者間で発現頻度にはかなりの差異がみられる。しかし、これらの報告の発育様式（内向型、外向型）に注目すると、発育様式のみでも臨床形態を反映していることがうかがえる。

日本では年間約7000人強が口腔癌に罹患しており、30年前の統計と比較してみると約3倍に増加している。このままの増加率でいけば、10年後には今の1.5倍となり、一万二千人以上が口腔癌に罹患すると予測されている。

1975年 2100人

2015年 7800人

町村先生は大学を卒業後、口腔診断学を専攻されておられ、40年間に経験をした粘膜疾患、口腔に症状を持つ全身疾患についてお話しいただきました。

これらの疾患は多彩な症状を持っており、診断に難渋することがあり、その際患者の訴えをよく聞き、身体学的診査を行い、所見に基づいた的確な臨床検査、病理検査を実施して、正確な臨床診断を行うことが医療安全につながり、口腔を通じ



て患者さんの健康に寄与するものとなる。また、増加の見られる口腔癌の早期発見、予防に歯科医師の役目は大きいとのことでした。

今回、多くの貴重な症例写真と共に講演頂き、大変勉強になりました。

みんなの写真館

Photo
Gallery



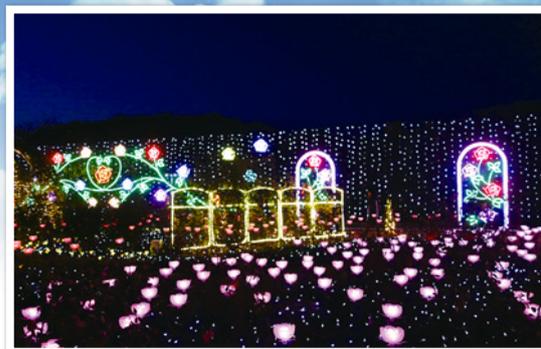
光のピラミッド



光のフラワーステージ



きばな藤のトンネル



光のバラ園



奇蹟の大藤



スターライトマジック

会員数

平成30年1月31日現在

(社)茨城県南歯科医師会 富田 浩之

支 部	会員数(前月比)
日 立	120
珂 北	144 +1
水 戸	154
東西茨城	70
鹿 行	106
土浦石岡	176
つ く ば	123
県 南	180 +1
県 西	154
西 南	104
準 会 員	4 +1
計	1,335 +3

みんなの写真館写真募集!

このページには皆さんからの写真を掲載できます。表紙写真に関連した写真、ご自宅の古いアルバムに埋もれた写真などをお送り下さい。

1種会員	1,155名
2種会員	48名
終身会員	128名
準会員	4名
合計	1,335名



Ibaraki Dental Association

公益社団法人 茨城県歯科医師会

茨 歯 会 報

発行日 平成 30 年 3 月
発 行 茨城県歯科医師会 水戸市見和 2 丁目 292 番地
電 話 029(252)2561~2 FAX 029(253)1075
ホームページ <http://www.ibasikai.or.jp/>
E-mailアドレス id-05-koho@ibasikai.or.jp

発行人 渡辺 進
編集人 柴岡 永子



この会報には、環境に配慮して植物油インキを使用しております。